

耳鼻咽喉科（補聴器相談医）への受診で、おひとりおひとりにあった適切なアドバイスを受けることができます。



【監修】
東北労災病院 耳鼻咽喉科 部長
宮城県 補聴器キーパーソン
織田 潔 先生

聞こえにくいと 認知症になりやすい？

治療せずに放置された難聴は認知症の要因となります。

宮城県内でも超高齢社会を迎え、加齢性難聴が増加していますが、補聴器を使うことで、地域との交流や社会、ご家族やご友人とのつながりを保ち、認知症の発症リスクを減らせます。

「テレビのボリュームが大きくなった」、「体温計の音が聞こえない」、「聞き返すことが多くなった」といったことがあれば、聞こえの専門医である補聴器相談医がいる耳鼻咽喉科を受診してみませんか？

処置や手術により聞こえがよくなる方、補聴器で聞こえやすくなる方、難聴が高度になると人工内耳で聞こえやすくなる方もいます。以前の聞こえを取り戻せるかも知れません。

「使えば元通りに聞こえる」、「買いさえすればずっと使える」わけではなく、補聴器についての理解や使いこなす気構えも大切です。

補聴器や人工内耳は医療機器であり、その方の聞こえの状況に合わせて調整を行う必要があります。

難聴の程度や市町村によっては購入について支援が受けられる場合もありますので、補聴器相談医のいる耳鼻咽喉科を受診してみてください。

聞こえのチェックシート

当てはまる項目に
レ印を付けてください

- 1 会話をしている時に聞き返すことがよくある。
- 2 後ろから呼び掛けられると気付かないことがある。
- 3 聞き間違いが多い。
- 4 見えない所からの車の接近にまったく気がつかないことがある。
- 5 話し声が大きいと言われる。
- 6 集会や会議など数人の会話でうまく聞き取れない。
- 7 電子レンジの「チン」という音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。
- 8 相手の言ったことを推測で判断することがある。
- 9 騒音の多い職場や大きくうるさい音のする場所で過ごすことが多い。
- 10 家族にテレビやラジオの音量が大きいと言われることがよくある。

0~2個

現状は問題ないと思われますが、「聞こえ」は急に衰えることもあります。**定期的に耳鼻咽喉科(補聴器相談医)を受診し、**耳の検査をしましょう。

3~4個

一度、**耳鼻咽喉科(補聴器相談医)に相談**してみてはいかがでしょうか。

5個~

できるだけ早く耳鼻咽喉科(補聴器相談医)の診察を受けることをおすすめします。

(日本補聴器工業会ニュースレターより引用)

聞こえにくい？
と感じたら、まずはお気軽に
耳鼻咽喉科受診をおすすめします。



補聴器相談医による
加齢性難聴の治療選択

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
宮城県地方部会



みやぎ難聴支援ネットワーク

加齢性難聴とは



年齢とともに、音を感じる細胞が少しずつ減っていき、聴力が低下する現象です。聴力の低下は、さまざまな社会生活に影響を及ぼすだけでなく、うつ病や認知症を引き起こすリスクも秘めています。加齢性難聴は早い人では40歳代から始まります。

根本的な治療法はありませんが、初期段階から補聴器などで「聞こえ」を補うことで、音を感じる能力を最大限に発揮し、聴力を維持することが期待できます。

「聞こえないのは年のせい」とあきらめてはいけません。医師と一緒に直す方法を相談しましょう。

加齢性難聴の治療選択

難聴の程度	聴力レベル	聞こえの状況
正常	25dB未満	小さな声やささやき声も聞こえる
軽度難聴	25～40dB未満	小さな声や騒音下での会話が聞きづらい 聞き間違いや聞き返しをすることが多い
中等度難聴	40～70dB未満	普通の大きさの声の会話が聞きづらい
高度難聴	70～90dB未満	普通の大きさの声の会話が聞き取れない
重度難聴	90dB以上	耳元で話されても聞き取れない

(日本聴覚医学会の資料をもとに作成)

治療の第一選択

1 補聴器の装用

補聴器装用でも効果が不十分な高度・重度難聴

2 人工内耳の装用

1 補聴器の装用



補聴器を購入する前に耳鼻咽喉科(補聴器相談医)の受診をおすすめします。

聞こえにくいと感じたら、補聴器を購入する前に補聴器相談医のいる耳鼻咽喉科の受診をおすすめします。

耳鼻咽喉科医の診察では、聴力検査などを行ってから補聴器が有効か診断します。中耳炎や耳あかにより聞こえが悪くなっていれば、手術や処置で聞こえがよくなる場合もあるため、補聴器販売店に直接行っていただいても、耳鼻咽喉科の診察なしでは補聴器を販売できないことがあります。

また、購入や適切な調整(フィッティング)については、認定補聴器店の認定補聴器技能者に相談するのもよいでしょう。

補聴器を購入される際の医療費控除や補助制度について



補聴器が必要と補聴器相談医が判断した場合、認定補聴器店宛てに所定の様式の情報提供書を発行します。

この情報提供書に基づいて認定補聴器店が補聴器を販売した際には、購入代金は医療費控除の対象となります。詳細は申告する税務署にお問い合わせください。

また、難聴の程度が身体障害者認定基準に該当し、認定を受けていれば、障害者総合支援法により等級に応じて補聴器購入時に補助を受けられる制度があります。認定の手続き方法はお住まいの自治体にお問い合わせください。

2 人工内耳の装用



人工内耳の構成

人工内耳は体外に装着するサウンドプロセッサと、体内に埋め込むインプラントの2つの装置により、電気信号で聴神経を刺激する医療機器です。



耳掛け型
サウンドプロセッサ



コイル一体型
サウンドプロセッサ



インプラント

人工内耳の聞こえのしくみ



人工内耳は補聴器を装用しても会話が困難など装用効果が不十分な方に対する効果的な聴覚獲得法です。

人工内耳手術は平成6年4月より健康保険の適用となっております。

また、高額療養費制度、心身障害者(児)医療費助成などの申請や自立支援医療制度などの適用で、個人負担を軽減することができます。

詳しくは、自治体の担当窓口、または手術を受ける病院の医療福祉相談窓口にご確認ください。